

第41回 歌声喫茶を巡回した 女性コーラス隊の功績

昭和45年頃だったでしょうか。私はピークを過ぎた時期の「歌声喫茶」で、見ず知らずの人たちとの合唱空間を堪能したことがあります。

その「灯」など、歌声喫茶を歌手が巡回して大ヒットにつなげた歌があります。昭和36年9月に発売された仲宗根美樹の代表曲『川は流れる』です。この曲は当初B面でしたが、当時まだ隆盛をきわめていた歌声喫茶での地道な営業で大ヒットへの道が開かれました。

仲宗根のCDだと、『川は流れる』はたいてい1曲目に収録されていますが、題名と作詞者・作曲者表記の下には「ヴォーチェ・アンジェリカ」という名前が記されています。

これは、知る人ぞ知る、バックコーラスを担当した6人組の女性グループのことで、名前はイタリア語で「天使の声」を意味します。

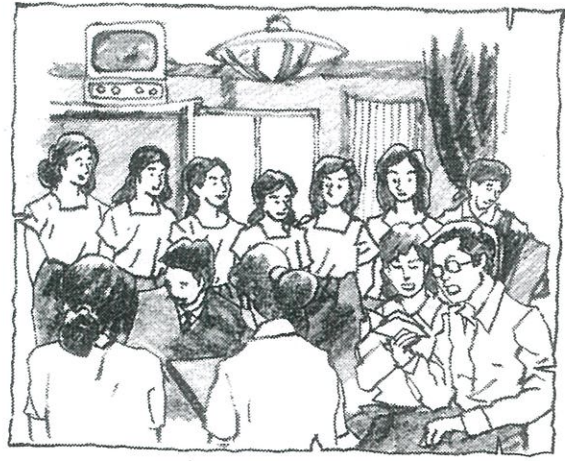
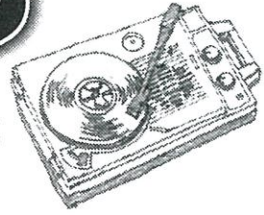
ヴォーチェ・アンジェリカが結成された昭和35年前後は、『黄色いさくらんぼ』のスリー・キャッツ、『山

のロザリア』のスリー・グレイセス、『レモンのキス』のベニ・シスターズ、ミツワ石鹸CMのスリー・バ

名曲カルテ

昭和歌謡と いつまでも

堀井六郎
絵・松本 浦



ブルスなど、女性3人組のグループが登場した時期でもありました。

ヴォーチェ・アンジェリカは、ペギー葉山やダーク・ダックスなどと共演しつつ、ラジオやコンサートではクラシックや外国民謡、映画音楽から戦時歌謡、童謡まで幅広く歌いこなし、レコードでは仲宗根だけでなく、春日八郎や三橋美智也のバックコーラスを担当、六重唱も可能な実力と名前は次第に知られるようになっていきました。

そして昭和38年3月、彼女たちに『忘れな草をあなたに』という待望のオリジナル曲が提供されます。メンバーはスリー・グレイセスや仲宗

根美樹にならない、「灯」「山小屋」などの歌声喫茶を巡回して歌のPRに努めました。

やがて歌はレコード化され、美しいコーラスと歌自体の持つ魅力で歌声喫茶の枠を超え、倍賞千恵子、菅原洋一など人気歌手にもカバーされ、昭和を代表する名曲として多くの人に愛されることとなりました。

平成の世にも歌声喫茶はまだ残っているようですが、『川は流れる』と『忘れな草をあなたに』がいまだに高い人気を誇っているのは、仲宗根とヴォーチェ・アンジェリカが歌声喫茶で合唱好きの人たちと青春のひとつときを共にした経緯とは無関係ではないでしょう。

歌声喫茶の名残を感じさせる音楽番組『BS日本・こころの歌』でも、この2曲がとりあげられる機会が多いようですが、オリジナルを歌った彼女たちのことも、いつまでもいつまでも憶えておいてほしい、と思います。

『川は流れる』の一年後に発売された『いつでも夢を』や舟木一夫の学園ソングに欠かせない女性コーラスですが、ヴォーチェ・アンジェリカの残した軌跡が青春歌謡に大きな影響を与えたことの証でもあります。

ほりい・ろくろう 昭和27年東京都生まれ。慶應義塾大学文学部卒業後は25年にわたる出版社勤務を経て独立。現在は出版社経営の他、ライターとしても活躍。近著は『私的「昭和歌謡考」第4集』しあわせになろうね。(グスコー出版)